

遊び場面における進級園児の交渉ストラテジー

○城下 圭子（菊本幼稚園）

青井 倫子（愛媛大学）

《目的》

進級時期を扱ったこれまでの研究は、新参者である新入園児が既存集団である進級園児集団よりも弱い立場にあり、進級園児の側から受ける影響が大きいことを示してきた。それらの研究の多くは、新入園児の側に焦点をあて、その適応過程を扱ったものであり、既存集団の側に焦点をあてた研究は多くない。

本研究ではこれまであまり検討されてこなかった進級園児の側に焦点を当て、遊び場面において進級園児がその他の進級園児や新入園児に対してどのような交渉ストラテジーを用いるのかを検討することにした。その際、時期による変化、すなわち、新入園児の園生活への適応に従ってどのような変化が見られるのか、また個々の遊び場面における進級園児と新入園児の人数比による相違を中心に検討する。

《研究方法》

- ・対象児：愛媛県内 E 幼稚園の 4 歳児 2 クラス（A 組：進級園児 10 名、新入園児 25 名、B 組：進級園児 10 名、新入園児 25 名）。
- ・観察日時：平成 14 年 4 月から 11 月の間の 38 日間。
- ・観察方法：自由遊び場面における参与観察及びビデオ記録。
- ・分析方法：遊び場面で観察された進級園児の交渉ストラテジーを表 1 のカテゴリーに従って分類し、分析する（カテゴリーは白井・杉野（2002）をもとに独自に作成）。

表 1 遊び場面における交渉ストラテジー

カテゴリー	下位カテゴリー
攻撃的交渉	指示する・命令する、非難する・叱る、攻撃する・横取りする、拒否する、無視する
積極的交渉	自己主張する、説明する、ふざける、頼む、提案する・勧誘する、教える・援助する、許可する・承認する、誉める・励ます
中立的交渉	あいさつ・呼びかけをする、質問する、質問に答える
同調的交渉	物を渡す・譲る、説明・同意を求める、許可・承認を求める、援助を求める、模倣する・同意する、謝る、従う、受容する

《結果と考察》

（1）時期による変化

新入園児の園生活への適応に従って、進級園児の用いる交渉ストラテジーがどのように変化するかを検討するため、観察期間をⅠ期（4・5月）、Ⅱ期（6・7月）、Ⅲ期（9・10・11月）に分け、分析を行なった。

積極的交渉は全期を通して高い割合を示しており、また交渉相手が進級園児の場合と新入園児の場合とで大きな差は見られなかった。これは、自己主張する、説明する、提案するなど、遊びを進めていく上で重要な項目がこのカテゴリーに含まれているためと思われる。

Ⅰ期において、進級園児が攻撃的交渉を用いる割合は、新入園児に対してよりも進級園児に対する方が低かった。同調的交渉を用いる割合については逆に、新入園児に対してよりも進級園児に対して高かった。Ⅰ期には、進級園児同士で遊ぶ姿がよく観察された。進級園児に対して友好的な交渉ストラテジーを多く用いるのは、高濱・無藤（1997）が述べているように、新入園児の参入により人間関係が不安定になっている状況の下、進級園児の間に既存の関係を保つことで安定しようという意識が働くためであると考えられる。

Ⅱ期になると、新入園児の園生活への適応もすすみ、進級園児と新入園児と一緒に遊ぶ姿が多く見られるようになった。しかし、一緒に遊んだ経験が少ないためか、遊びをすすめる際には、新入園児の反応を探ったり、考えを伺うような発言が多くみられた。Ⅰ期と比べて新入園児に対する攻撃的交渉の割合が減少し、同調的交渉の割合が増加したのは、こうしたことを反映していると思われる。また、多数の新入園児が入ってくることで人間関係が不安定になり、進級園児同士の親和欲求が高まっていた進級当初のⅠ期と比べ、Ⅱ期では、進級園児に対する攻撃的交渉が増加し、同調的交渉は減少した。

Ⅰ期からⅢ期にかけて、進級園児に対しては、積極的交渉と同調的交渉の割合が減少する傾向にある一方で、攻撃的交渉は増加した。他方、新入園児に対しては攻撃的交渉が減少し、同調的交渉の割合が増加した。これらのことは、新入園児と進級園児の両方がともに、新しい園生活に適応したこと、また進級園児が新入園

児を園の十全な一員として認識するようになったこと、新入園児を含んだ形で新たな関係が構築されたことなどにより、新入園児の関わりを拒否したり、進級園児同士だけの関係の中で安定しようとしたりする必要がなくなったことによると思われる。

また、進級園児が新入園児に対して常に強者的な交渉戦略を用いるわけではないことも明らかになった。すなわち、事例の内容を検討した結果、進級園児が新入園児に対して攻撃的交渉を用いるのは、主に進級園児同士のルールを新入園児が乱す場合であった。これらのことは、進級園児が交渉戦略を選択する際、相手が意味を共有する者であるのか、それとも意味を共有できない者であるのかということが重要であることを示すものと考えられる。

表2 進級園児が用いた交渉戦略の頻度とその割合

	交渉相手	攻撃的交渉	積極的交渉	中立的交渉	同調的交渉	合計	事例数
I 期	新入	42(28)	81(53)	17(11)	12(8)	152	41
	進級	30(14)	119(55)	29(13)	39(18)	217	
II 期	新入	82(25)	169(52)	34(11)	36(12)	321	74
	進級	76(22)	182(51)	44(12)	52(15)	354	
III 期	新入	69(23)	135(45)	51(17)	45(15)	300	40
	進級	59(25)	113(49)	34(15)	26(11)	232	

()内は%

(2) 進級園児と新入園児の人数比による相違

進級園児の側が2名以上の場合には、新入園児に対する攻撃的交渉の割合が高くなっていた。これは、自分と同じ進級園児が遊び集団内にいる場合には、自分たちが共有してきた準拠枠や遊びの前提を新入園児に強制しようとする傾向が強くなることを表している。また、進級園児の新入園児に対する攻撃的交渉の割合は、新入園児の側が2名以上になった場合により高くなることから、進級園児たちは、新入園児の人数が多くなると、自分たちがこれまで共有してきた準拠枠や遊びの前提が壊されるのではないかと強く警戒し、攻撃的交渉をより多くとるものと思われる。このように、進級園児は新入園児に対して攻撃的交渉を多く用いる傾向にあったが、新入園児の中に進級園児が一人だけの場合、及び、進級園児の中に新入園児が一人だけの場合には、進級園児の新入園児に対する攻撃的交渉は少なかった。また、進級園児1名と新入園児1名とで遊んでいる場合には、進級園児同士の遊びの場合と似

たような傾向であった。

これらのことは、進級園児たちが、単に進級園児（古参者）か新入園児（新参者）かという点からだけ勢力関係を捉えているのではなく、その場その場での互いの人数比も考え合わせて勢力関係を判断し、それによって交渉戦略を変えていることを示唆している。

《全体的考察》

本研究で得られた主な知見は、以下の2点である。

(1) 進級園児にとって重要なことは、相手が意味を共有する者であるか、それとも意味を共有できないものであるかということ、また、自分たちが共有してきた準拠枠や遊びの前提が新入園児によって脅かされないように守ることであり、このことが交渉戦略の選択に反映される。(2) 進級園児は、単に相手が新入園児であるか進級園児であるかということや、進級園児と新入園児のどちらが多いかという単純な人数比に基づいて交渉戦略を変えているのではなく、遊び場面における勢力関係を両面から総合的に判断し、交渉戦略を選択している。

表3 進級園児と新入園児の人数比と交渉戦略の関連

	交渉相手	攻撃的交渉	積極的交渉	中立的交渉	同調的交渉	合計	事例数
進級同士		進級 59(17)	180(52)	50(15)	57(16)	346	30
新入>進級	進級=1	新入 27(17)	86(55)	18(12)	25(16)	156	28
	進級≥2	新入 31(35)	33(38)	14(16)	10(11)	88	8
	進級	18(22)	43(52)	12(15)	9(11)	82	
新入=進級	1:1	新入 48(22)	112(51)	27(12)	33(15)	220	36
	2:2以上	新入 25(32)	44(56)	7(9)	2(3)	78	12
	進級	5(10)	32(62)	7(14)	7(14)	51	
新入<進級	新入=1	新入 39(21)	97(52)	33(17)	19(10)	188	31
		進級 42(19)	115(51)	33(15)	33(15)	223	
	新入≥2	新入 24(53)	13(29)	3(7)	5(11)	45	10
		進級 41(41)	44(43)	5(5)	11(11)	101	

()内は%

主要引用・参考文献

- 白井万土香・杉野欽吾 2002 「幼児の対人行動の発達に関する研究」 神戸大学発達科学部研究紀要 第9巻 第2号 315-330頁
- 高濱裕子・無藤隆 1997 「移行期の仲間関係—新入園児の参入にともなう進級児の相互作用の変化—」 日本家政学会誌 第48巻 第4号 279-287頁